

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

園名	三木市立緑が丘東幼稚園
----	-------------

1 幼稚園教育目標

『思い合いのある 心豊かな子どもたちの育成』 ・健康で明るく最後までがんばる元気な子 ・自分の思いが素直に表現でき、友だちの思いを受けとめられる子 ・誰とでも仲良く遊べる子

2 本年度の重点目標

○友だちとの関わりの中で、自己発揮しながら、心を動かして主体的に遊べるような環境づくりに努め、魅力ある幼稚園をめざす。 ○『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら、支援の方向性と学びを明確にし、保育実践をする。 ○保護者や地域との連絡や情報発信等により、地域に開かれた幼稚園をめざす。
--

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	①一人一人の内面を読み取り、発達に即した指導を行う。(写真によるドキュメンテーションの実践、個人支援案の作成と共通理解) ②友だちとの遊びを通して生き抜く力の基礎を育成する。 ③基本的生活習慣を身につける。 ④学校給食や栽培活動、料理保育を通した食に関する指導及び食育の推進を行う。	①職員会議を毎日行い、園児一人一人の頑張った点、気になった点等を職員間で共有することで、正確な幼児理解に基づいた評価を行っている。 ②子どもたちの「やりたい」と思う遊びの内容が、子どもたちの力で発展していくための“いろいろな種”となる環境構成(人的・物的・空間)を適時性を見計らいながら、整えていくことに尽力している。そのためには、職員間での共通理解と検討・実施・見直し・改善等が必要である。 ③園児一人一人の発達段階を把握し、肯定的な言葉をかけながら、排泄・衣服の着脱・食事・身辺整理など、基本的生活習慣の確立をめざしている。 ④栄養教諭(給食博士)からのメッセージを園児にわかりやすく伝え、保護者にも給食の写真と共に、毎日掲示し、「親子の共有情報」と「食への関心」が高まるようにしている。自園栽培として、今年度は、イチゴ、夏野菜(なす、トマト、トウモロコシ、キュウリ、オクラ、ピーマン、スイカ、かぼちゃ)、タマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、カブ、人参、ダイコンの種まきやレタスやブロッコリーの苗植え、水やり、草引き、収穫等の活動を友だちと一緒に体験することができた。また、自園栽培した食材を使って、夏野菜カレー、かぼちゃのハロウィンパンケーキ、きんかんジュース、スイートポテト等、料理保育を通して旬の素材を楽しみ、偏食が減るよう働きかけた。	A	①少人数だからこそ、毎日の職員会議で、全園児の育ちを共通理解できる。時間の確保と継続に努める。 ②自由に表現したことを受け入れてもらえる安心感をもち、友だちと実現できる楽しさへつなげることで、主体性、共同性を育む。 ③基本的生活習慣の確立には、個人差や家庭環境に大きく左右されると同時に教師の声掛けや表情も影響する。<できた喜び><成長への意欲>が感じられるよう、丁寧に接していく。 ④学校給食(豊富な食材、栄養満点)を通じ、「食べること=生きるために大切なこと」として伝え、少しでも偏食を失くせるように働きかける。
道徳・人権教育	①様々な体験活動を通し、相手を思い合う心や規範意識の芽生えを育てる。 ②身近な自然や動植物にふれ、命を大切にすることを育てる。 ③友だちとの関わりの中で、葛藤する経験をしたり、折り合いをつけたりしながら、自分の気持ちを調整できる力を育てる。 ④子どもたちが、教師に求めたり、心が動いたりしたその時機を逃さず保育にいかす。	①子ども同士が思いを伝え合う場『分かち合い』の充実や、日常生活の中で友達との自然な関りや刺激しあえる環境を構成し、子ども同士のそれぞれの成長につなげている。(例えば、給食活動や、掃除、お手紙当番等で、自信や使命感をもって人のために活動したり、友だちの姿を見て感化されたりしている。) ②自然と触れ合う経験を大切に、身近な動植物の生命に触れ、子どもたちが、驚きや発見したことに興味や関心を持ち、自主的な活動につながるように支えながら、<共感する><夢中になれる>時間を大切にしている。(泥田のカエル捕り、丸池のザリガニ釣り、ウサギの世話、コオロギの飼育等) ③「葛藤や挫折」「我慢や譲渡」等の経験は、“子どもが育つチャンス”“非認知能力の育ち”であることを保護者と共通理解しながら、乗り越えようと頑張る様子を園と家庭とで支えている。 ④『時機を逃さない』(園児の心が動いた瞬間をキャッチし、保育に活かす)をモットーに、わくわくするような環境構成を工夫している。(夏まつりごっこ・運動会・発表会等)	A	①友だちとの関わりの中で、何を伝えたいのか、一緒にして嬉しいこと等が伝わるように支え、お互いの存在が喜びや刺激になるように配慮する。 ②子どもの心をキャッチするために、絶えず、教師自身の感性を磨くことに尽力し、『感動する心』を忘れない。 ③④子どもたち一人一人の目には見えない心の動きや育ちを、表情・言葉・態度から感じ取るとともに、時機を逃さずに受容と応答ができるように努める。また、保護者と教師との連携を大切に、共感と協同することを心がけ、楽しみながら子育てができるようにする。
特別支援教育	①一人一人の独自性や違いを受けとめながら、「心もち」への共感を大切にするとともに、共に学び、育ち合える仲間関係づくりをする。 ②関係諸機関と適切な連携を行い、専門性を学び、実践する。	①個々の「心もち」に対する受容に努め、安心して自己表現できる園づくりをめざしている。一人一人が<自分の気持ちを言葉で伝えること><態度で表現すること><友だちの思いを意識して聞くこと>が、安心してできるような雰囲気づくりに努め、自己表現できる機会を設定している。 ②市の巡回相談、園内研修会による講師の招聘等により、実際の子ども集団生活の様子から、適切な支援の方向性や必要な配慮について研修を深めた。	A	①クラス目標だけでなく、個々の到達点を具体的に定め、職員間で支援の方向性を検討していく。 ②専門機関との連携は、幼児の発達段階に即した適切な支援を行うために重要である。個に応じた丁寧な指導を心がけ実践してきたことを小学校につないでいく。
家庭・地域との連携	①園と家庭との情報交換を密にしながら幼児理解を深め、基本的生活習慣を確立する。 ②老人会、地域との交流等、様々な人々とかかわる機会を設定する。 ③他校種との連携をする。(少人数の強みをいかした交流の工夫)	①保護者へは、降園時のスピーチやドキュメンテーションや連絡帳への写真添付、クラスだよりの発行、ホームページ等により、園生活の様子や成長が保護者に伝わるよう配慮している教育活動や園児の様子具体的に伝わるよう努力し、信頼関係の構築を図っている。 ②毎日の園庭開放や園児と遊ぶ会「たんぼ広場」の実施、老人会との「花いっぱい運動」(夏・秋)、青山・緑が丘町各公民館の作品展、夏祭りや文化祭や敬老会への出演、家庭教育学級実施(親子交通安全教室、親子トランポロピックス)、乳幼児学級来園等に協力することができた。また、地域の方には、ウサギの餌や大輪菊や新春お茶会の招待、イベント紹介(民話とわらべ歌の会)等にも大変お世話になり、貴重な経験をすることができた。 ③隣接する緑が丘東小学校との交流は、小学生への憧れや成長への見通し、意欲や期待感につながっている。特に、1年生に招待を受けた「秋フェスタ」やボランティア委員会の5・6年生との交流は、親近感を持ちながらの楽しい活動となった。他園(三樹幼・自由幼・広野幼)や保育所との交流、三木北高校の環境教育活動(キャップ集め、古着回収)への協力、トライやるウィークの中学生との心の交流等も大変貴重な経験となっている。	A	①発表会、運動会参観日など、行事だけでなく、それまでの過程(学びや育ち)が伝わるよう、様々な方法で発信していく。 ②これまで幼稚園がたくさんの方々に支えられてきたことに感謝の気持ちを持ち、修了式・閉園式の準備を進め、残り少ない幼稚園生活が充実した日々になるよう支えていく。 ③異校種、異年齢交流の貴重な経験を通して、子どもたちに向上心や小学生への憧れの気持ちが芽生えている。引き続き、小学校への就学がスムーズにできるように支援していく。
安全教育 防災教育	①園舎、遊具等の安全点検を徹底して行う。 ②危機管理マニュアルの活用と実践的な訓練(火災・地震・不審者等)を実施する。 ③家庭や小学校と連携し、危機管理体制を推進する。 ④市教委と連携し、危険箇所等の整備と施設管理体制の充実を行う。	①点検日を決め、複数の目で安全確認と記録をしている。園児の遊びを見守っている途中でも、気になる箇所は、点検をし、職員会議で報告し合っている。 ②③危機管理マニュアルに基づき、火災・地震・不審者侵入等、様々な場面を想定し訓練を実施したり、教職員の救急法講習会に参加したりしている。特に今年度は、『毎日が避難訓練』という意識をもち、日ごろから、子ども同士や園児と教師の信頼関係の構築を大切に、どんな状況でも、全員で生き延びるために、しっかり話を聞くことを重要視している。 ④小さな事でも、『ヒヤリハット幼稚園マップ』『ヒヤリハット・けが等発生報告書』を活用し、場所や状況等を全職員で共通理解し、事故等の防止に努めている。	B	①安全点検を継続し、目視・触診・聴診を行う。遊具だけでなく、樹木や用具の隙間等にも注意し、セアカゴケグモ・ムカデ等の害虫駆除を行っていく。 ②③日ごろから、子ども同士や園児と教師の信頼関係を構築し、「集中して話をきく」ことを大切に引き続き保育を進めていく。 ④引き続きヒヤリハットを見逃さないようにすることで、危険防止に役立てていく。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

評価方法は概ね妥当である。 保護者・教職員アンケートに併せて、ようちえんだよりや園生活の写真等から教職員の熱心な思いが伝わってくる。閉園に向けた年度に、最後まできめ細かい教育により、令和5年度の教育目標を生かした『思い合いのある心豊かな子どもたち』が育ったと感じる。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
【教育課程・指導】…評価は概ね妥当である。 職員全体で園児一人一人を理解し、大切にしていることが伝わってくる。また、運動会や発表会での園児たちの自己表現は素晴らしかった。園児の自主性を求めた教育を評価したい。
【道徳・人権教育】…評価は概ね妥当である。 思いを伝え合うことは道徳、人権教育の基本である。このことを教師と保護者が率先して行い、園児たちの思いを大切にしていると感じる。人権は環境も大切なので、保護者を巻き込んだ関係が素晴らしい。
【特別支援教育】…評価は概ね妥当である。 どの子も安心して自己表現できる園づくりは素晴らしい。いつも目の前の子どもたちのことを一番に考え、一人一人にとって最善の発達支援に努めていると感じる。
【家庭・地域との連携】…評価は概ね妥当である。 地域との交流や、様々な人々と関わる機会を設け、小学校への就学がスムーズにできる支援体制に努めていることは素晴らしい。アンケートや日頃の様子より、教師と保護者の園児に寄せる思いがピットリ重なっていると感じる。
【安全教育防災教育】…評価は概ね妥当である。 様々な場面を想定しての安全・防災教育と園舎・遊具の安全点検と環境の設備に努めている。小さなことでもヒヤリハットの精神は大切である。

